

森美術館名誉理事長 森 佳子 名誉大英勲章 OBE を受章

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 辻 慎吾)の取締役であり、森美術館名誉理事長である森佳子は、この度、英国チャールズ 3 世国王陛下より、名誉大英勲章 OBE (Honorary Officer of the Most Excellent Order of the British Empire)を受章しました。勲章伝達式は、2025 年 11 月 6 日(木)に、駐日英国大使館大使公邸にて執り行われ、ジュリア・ロングボトム大使より勲章が伝達されました。

大英勲章は 1917 年に英国ジョージ 5 世 国王によって創設された、芸術、文化、科学、福祉等に尽くした人々の功績を表彰するもので、英国君主より授与される勲章です。



駐日英国大使館コメント

森佳子氏は、森美術館の前理事長、また森ビル株式会社の取締役として、文化・芸術を日本最大級かつ革新性に富んだ都市開発事業の中心に位置づけてこられました。この度の名誉大英勲章 OBE の受章は、特に英国との文化・教育交流における多岐にわたる活動を評価したものです。森氏の指導のもと、森美術館は英国のさまざまな芸術家を支援し、英国の文化・芸術の力強さと多様性を何百万人もの日本人に紹介することに貢献しました。森美術館での活動の他、森氏は、文化・芸術および芸術家を支援する独立したチャリティ団体であるロイヤル・アカデミー・オブ・アーツのトラスティ(理事)を長年にわたり、務められています。さらに、国際的な教育の擁護者として、教育を最新の都市開発事業の中心に据えるという構想のもと、英国の最先端デザインと教育革新におけるリーダーシップの象徴となるブリティッシュ・スクール・イン 東京の麻布台ヒルズキャンパスの開校にも貢献されました。

森 佳子コメント

この度、このような栄誉ある勲章をいただきましたこと、身に余る光栄でございます。

わたくしはこれまで、森美術館の理事長、そしてロイヤルアカデミー・オブ・アーツのトラスティとして、英国と日本の文化交流に携わってまいりました。そのなかで、文化芸術を愛する多くの英国の方々と親しく交流できたことは、わたくしの喜びであり、生き甲斐でもありました。また、歴史と伝統を重んじる英国から、極めて先進的で衝撃的な現代アートが次々に誕生していることに驚かされ、こうしたものを生み出す英国の奥深さと多様性に感銘を受けております。

今、振り返りましてつくづく思いますのは、「文化芸術には国境がない」ということです。世界が分断の危機にあるなかで、文化芸術こそ世界の人々をつなぐ絆であり、希望ではないかと思っております。微力ではありますが、これからも英国と日本の文化交流はもとより、世界中の文化芸術を愛する人々をつなぐきっかけになるような活動を続けてまいりたいと思っております。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

【参考】森美術館と英国との関係について

森美術館は、2003 年に開館し、初代館長に英国出身のデヴィッド・エリオット氏を迎えました。また、国際的なネットワーク構築のため 1999 年に発足したインターナショナル・アドバイザリー・コミティーでは、メンバーに英国のテートおよびテート・モダンをはじめ海外の主要美術館の館長を迎え、時代を反映した現代美術館の役割、美術館相互のパートナーシップの可能性などを議論しています。

また、これまでに「英国美術の現在史：ターナー賞の歩み展」（2008 年）、ウェルカム財団との共催による「医学と芸術展：生命と愛の未来を探る」（2009-2010 年）、「フォスター＋パートナーズ展：都市と建築のイノベーション」（2016 年）、「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」（2023 年）など、英国とゆかりの深い展覧会を多数開催してきました。このほか、さまざまな展覧会やラーニング・プログラムで英国のアーティストや建築家、キュレーターと協働しています。2026 年 4 月末からは、英国を拠点に活動するアーティスト、ロン・ミュエクの大規模な個展を開催します。

尚、森美術館創設者で森ビル株式会社代表取締役会長を務めた故・森稔も、日英の文化交流の発展に対する功績が認められ、2009 年に、エリザベス二世女王陛下より、名誉大英勲章 KBE を受章しています。

森美術館は、これからも世界に開かれた現代美術館として、「現代性」と「国際性」を追求しながら、多様な地域の先鋭的な美術や建築、デザイン等の創造活動を独自の視座で紹介してまいります。そして、生活の中のあらゆる場面で、より多くの人々がアートを楽しめる豊かな社会、すなわち「アート＋ライフ」の実現を目指してまいります。